

様式 1

平成 17 年度茨城大学社会連携支援経費申請書

茨城大学長 殿

申請者 所属 工学部
代表者氏名 増澤 徹

下記の本年度の社会連携支援経費を申請いたします。

1. プロジェクト名 (40 字以内)

茨城ライフサポート (ILiS : アイリス) コンソーシアムの構築

2. プロジェクトの連携先と連携内容 (別紙可)

連携先 :

筑波技術短期大学、茨城キリスト教大学、茨城県立医療大学、茨城県工業技術センター、
産業技術総合研究所、茨城県内企業、他大学、茨城県、日立市

連携内容 : (1000 字以内、連携の方法、内容、計画、期待される成果等を具体的に明記)

別紙 1 参照

申請分野 1 地域の教育力 2 地域環境形成、自治体との連携 3 産官学連携 4 学術文化 5 その他の地域との連携

3. 本プロジェクトにかかわるこれまでの経緯・実績 (別紙可)

別紙 2 参照

4. プロジェクト参加者（含む申請者）

氏名	学部・学科等	職名	分担内容
増澤徹 笠井浩 工学部 SCOPE プロジェクト LSS のメンバ ー全員 (別紙 3 参照)	工学部・機械工学科 共同研究開発センター 工学部	教授 客員教授	統括 渉外 研究会の実施, 補助

【プロジェクトの連携先と連携内容】**連携先：**

筑波技術短期大学、茨城キリスト教大学、茨城県立医療大学、茨城県工業技術センター、産業技術総合研究所、茨城県内企業、他大学、茨城県、日立市

連携内容：

【連携の方法、内容】茨城県を中心にライフサポート関係の研究、教育、事業を行っている各機関の連絡会を構築する。本連絡会は各会員機関同士の共同研究、業務提携、医工連携、産学連携の促進、地域産業の活性化を図ることが目的であり、茨城大学が有するライフサポート関係の研究活動の一層の活性化にも繋がる事業である。コンソーシアムの活動としては茨城大学や他機関のシーズ紹介講演会や情報交換会を考えている。

本連携を実現するために、笠井浩氏に共同研究開発センター客員教授として平成17年4月より就任いただいている。笠井浩氏は経済産業省で医療福祉機器技術企画官、産業振興部長を歴任されており、現在は医工連携コーディネータ協議会事務局長も兼任されている。コンソーシアムを形成する上で、同氏の人的ネットワークが有効に活用できる。

【計画】すでに筑波技術短期大学、茨城県工業技術センターには打診済みである。筑波技術短期大学は聴覚、視覚障害者対象の教育を行っている大学で、ライフサポート関係の研究、教育の茨城大学との提携に興味を有している。茨城県工業技術センターは従来より、福祉工学、食品化学分野での研究を行っており、地域企業との連携も視野に入れた協力体制が築ける。この他、茨城キリスト教大学、産業技術総合研究所の主要構成員とすでに検討を始めている。参加企業に関しては共同研究開発センターの「ひたちものづくりサロン」、日立地区産業支援センター、ひたちなかテクノセンターのネットワークを利用して募集する。今秋までに第一次連携先を決定し、今年度中に茨城大学でコンソーシアム結成会、プレス発表を行う予定である。

また、茨城大学におけるライフサポート関係の研究成果発信事業として、平成16年度茨城大学教育・研究支援経費をもとに計画している学生国際会議 The First International Student Conference at Ibaraki University “Frontiers in Life Support Science”（別紙4参照）のサポートを行う。

【期待される成果】

- 共同研究、業務提携、医工連携、産学連携の促進、地域産業の活性化
- 新しい研究分野、地域産業の創出、
- 新しい茨城大学の独自色の形成、発信。

【本プロジェクトにかかわるこれまでの経緯・実績】

平成16年度茨城大学教育・研究支援経費をもとに、平成16年度に茨城大学ライフサポートサイエンス研究会－研究会、講演会開催と学生国際会議準備－を立ち上げている。本研究会は茨城大学に現存するライフサポート分野の研究者グループを形成し、明日のライフサポートを担う新しい研究分野の創出、若手研究者の輩出を図り、世界的研究拠点形成の礎とするために設立された。昨年は研究会の立ち上げ、4回の講演会の開催、学生国際会議開催準備を行った。その結果は、工学部の5大研究プロジェクト（SCOPEプロジェクト）の一つ「ライフサポートサイエンス・プロジェクト」の形成として平成17年度に引き継がれている。昨年度の大きな成果として、

1. 筑波技術短期大学との研究提携検討
2. 学生国際会議の準備

が挙げられる。

筑波技術短期大学との研究提携検討に関しては、研究会で筑波技術短期大学に見学に行くとともに、大沼学長、村上聡覚部長とお話し、茨城県を中心にした緩やかな研究連絡会を作り、その中で両大学の研究提携、教育提携を模索していこうとの話になった。これが、茨城ライフサポートコンソーシアム発案の第一歩である。

一方、ライフサポートサイエンス研究会の成果報告、学外への発信、学生の国際感覚の滋養のために The First International Student Conference at Ibaraki University “Frontiers in Life Support Science” と銘打って学生国際会議の開催を企画した（別紙4参照）。本会議は本学の博士前期課程の大学院生が主体で企画、実行しているものである。学生の発表能力向上のために、大学院博士前期課程の講義に「国際コミュニケーション論」を教育・研究支援経費を原資に設け、30名の大学院生の技術英語発表教育を行った。本学生国際会議は平成17年7月13～15日に日立キャンパスで行われることになっている。3カ国、8施設、27件の発表論文を集めるに至った。

以上の経緯から、平成17年度は茨城ライフサポートコンソーシアムの構築を行い、茨城大学を中心とした新しい研究連絡会の形成、学生国際会議サポートによる情報発信を行っていききたい。

SCOPE プロジェクト：ライフサポートサイエンスプロジェクト メンバー一覧

白石昌武	工学部・システム工学科
青島伸一	工学部・システム工学科
五十嵐淑郎	工学部・物質工学科
稲垣照美	工学部・機械工学科
乾正知	工学部・システム工学科
岩崎唯史	工学部・システム工学科
上原清彦	工学部・メディア通信工学科
大島郁也	工学部・機械工学科
岡田養二	工学部・機械工学科
木村孝之	工学部・システム工学科
近藤良	工学部・機械工学科
住谷秀保	工学部・システム工学科
竹内亨	工学部・システム工学科
田中信厚	工学部・機械工学科
戸恒明	工学部・システム工学科
永井文秀	工学部・機械工学科
中村真毅	工学部・メディア通信工学科
藤井寛一	工学部・メディア通信工学科
馬書根	工学部・システム工学科
増澤徹	工学部・機械工学科
松田健一	工学部・機械工学科
矢内浩文	工学部・メディア通信工学科
山田光宏	工学部・メディア通信工学科